

## RemoteLOCK 700i 取り付け資料

RemoteLOCK 700i は、正しく施工しないと正常に動作いたしません。  
施工パートナーに取付けを依頼することを強く推奨いたします。  
施工パートナー：<https://remotelock.kke.co.jp/installation/>



### (取付前の作業)ドアの穴あけ

RemoteLOCK 700i を取り付けるためのドア穴あけの仕方は、取り付けるチューブラーの種類により異なります。

各々、切欠図を参照した上で穴あけを行ってください。

- ・ 錠ケースを使用する

[https://remotelock.kke.co.jp/hubfs/manuals/Checklist\\_RemoteLOCK700i.pdf](https://remotelock.kke.co.jp/hubfs/manuals/Checklist_RemoteLOCK700i.pdf)

(オールステンロクケースの記載部分をご参照ください。)

- ・ 製品本体に同梱しているラッチボルトを使用する

[https://remotelock.kke.co.jp/hubfs/manuals/RemoteLOCK700i\\_Template\\_BS60.pdf](https://remotelock.kke.co.jp/hubfs/manuals/RemoteLOCK700i_Template_BS60.pdf)

## 1. チューブラー取付け

錠ケースとラッチボルトでは取付方法が異なります。

### ■錠ケース取付

#### POINT

・ラッチボルト取付時に先の工程となる角芯(パネ付き)取付及びアンテナ線及び電源ケーブルの挿入も錠ケースの場合はこの時点で行う必要があります。

#### 1. ロックケースを取り付け、角芯を取り付けます

ドアにロックケースを取り付けます。  
その後、角芯を取り付けます。パネはロックケースとツメの間に取り付けます。



#### 2. テンキーユニットのハーネスを通します

電源ケーブルとWIFIのアンテナ線は、ロックケース上部のペンギン形の穴を通します。



#### 3. 背面パネルを取り付けます

仮止め部品で角芯が中心になる位置で背面パネルを3本のネジで取り付けます。  
その後、**仮止め部品を取り外します。**



錠ケース設置の場合、上記の作業終了後は、「12 電源ケーブルの接続」以降の対応に進んでください。

## (参考)

◆右吊り・左吊りはいずれも対応可能です。変更方法は以下の通りです。

- ①フロント化粧板、②上面、下面、のネジを外します。フロントの黒い金具を外すことで
- ③ラッチの向きを変更 します。

①フロント化粧板



②上面、下面



③ラッチの向きを変更



## ■同梱しているラッチボルト取付

ドア枠にラッチボルトを付けてください。

### POINT

- ・扉がしまる方向にラッチの傾斜がある方を向けてあること。
- ・受側のプレート(ストライク)もあわせて取り付けてあること。
- ・ラッチとストライクは水平の位置であること。
- ・ドア内部が空洞(ドアの材質がアルミなど)の場合、ラッチボルト取付け金具の強度を十分に確保すること。



## 2. 筒状のネジのはめ込み

テンキーのある本体の上の穴に筒状のネジをはめ込んでください。

### POINT

- ・ネジ部分に切れ目の無い方を本体にはめ込むこと。
- ・ネジの切れ目の部分が下側になるようにすること。  
(電池交換時等、ケーブルがネジの切れ目に引っ掛からないようにするための配慮)
- ・電源ケーブル(赤と黒のケーブル)とアンテナ線は筒の中を通すこと。
- ・アンテナ線(グレー色)が本体から外れないよう注意すること。



## 3. 角芯の差し込み

テンキーのある本体の下の穴に角芯及びバネを差し込みます。

### POINT

- ・ツバ(バネ止め)のある方を本体側とすること。ジの切れ目の部分が下側になるようにすること。
- ・バネは口が小さい方をツバ(バネ止め)の方に向けること。



#### 4. 補助棒の差し込み

角芯の横に補助棒を差し込みます。補助棒をAかBのどちらに差し込むのかは、ラッチボルトの設置向きにより異なります。テンキー側本体をドアに設置する時に補助棒がラッチボルトの丸い穴に入り込む方が正しい補助棒の挿入位置です。



←この図はBの穴に補助棒を差し込んだ例である。

#### 5. ゴム性の緩衝材を本体にはめる。

ゴム性の緩衝材を本体にはめてください。



#### 6. ドア外側本体の取付け

ドア外側からテンキーのある本体(上記5で組み立てたモノ)をはめ込みます。

##### POINT

- ・筒状のネジはドアの上の穴を通すこと。
- ・角芯はラッチボルトの四角の穴を通すこと。
- ・補助棒はラッチボルトの丸い穴にはめ込むこと。  
(丸い穴の位置に合わない場合は、補助棒の差し込み位置(AとB)が間違っています。)



←ドア外側



←ドア内側

## 7. ドア内側本体の筐体取り外し

付属の六角レンチを使用し、ドア内側本体の筐体から電池 BOX 付きの背面パネルを取り外してください。

### POINT

・電池カバーを外す時、アンテナ線の扱いには注意すること。



## 8. 背面パネルの緩衝材取付け

電池 BOX 付きの背面パネルにゴム製の緩衝材をはめてください。



## 9. ドア内側に背面パネル(緩衝材付き)を取付け

ドアの内側に上記8で作成したモノをはめ込んでください。

### POINT

- ・電池カバーの下の穴に筒状のネジが通ること。
- ・電池カバーの下の2段目の穴に角芯が通ること。



## 10. ドア外側本体とドア内側本体を仮止め

ドアの内側の筒状のネジにネジ止めをはめて仮固定してください。



## 11. 角芯の固定部品の取付け

角芯の固定部品をドア内側の角芯にはめ込んでください。

### POINT

- ・出っ張りのある方を奥にしてはめ込むこと。  
(ここでスムーズに入らなければドアの穴の位置がずれている可能性がありますので、施工状態の再確認を行ってくださいますようお願いいたします。)



## 12. 電源ケーブルの接続

電源ケーブルを接続してください。



### 13. ネジ止め

ドア内側から、上2カ所、下1カ所をネジ止めしてください。

#### POINT

- ・ネジの長さはドア厚に合わせて必要に応じて切断すること。
- ・この3カ所のネジの締め具合により、正常に動作しなくなります。  
(強く締めれば良いということではない。強すぎるとドア本体への圧力がかかり、ラッチボルトの動きに支障が  
でる可能性があります。)
- ・角芯の固定部品がスムーズに取り外したり取り付けたりできることを確認すること。



### 14. ドア外側本体の鍵穴カバーの取付

ドア外側本体の鍵穴の所に鍵穴カバーをはめ込んでください。



## 15. ドア外側本体のドアノブの取付

ドア外側のドアノブを奥まではめ込んでから、付属の六角レンチでドアノブ下側のネジを締めてください。

### POINT

- ・ドアノブは奥まで挿入し、中途半端な位置となっていないこと。  
(中途半端な位置となっていると施錠/解錠できなくなることがあります。)



## 16. 仮止め部品の取り外し

部品間の緩衝により角芯やラッチボルトの動作不具合を起こさぬように、角芯の固定部品を外してください。

また、筒状のネジに仮止めしたネジ止めを緩めてください。



## 17. 施工途中の動作確認

ドア外側のドアノブを付けた時点で以下の動作確認を行ってください。

### POINT

- ・ドアノブを下に下げる動作を何回も繰り返し、テンキー側の本体がずれないこと。
- ・ドアノブを下げてラッチボルトが引っ込まないこと。
- ・角芯の固定部品がスムーズに取り外したり取り付けたりできることを確認する。

## 18. ドア内側筐体の取付け

付属の六角レンチを使用してドア内側の筐体を取り付けてください。

### POINT

- ・アンテナ線は本体から外れないように注意し、電池カバーの所から出しておくこと。
- ・電源ケーブルが角芯に引っかからないようにすること。



## 19. ドア内側本体のドアノブの取付け

ドア内側のドアノブを奥まではめ込んでから、付属の六角レンチでドアノブ下側のネジを締めてください。

### POINT

- ・ドアノブは奥まで挿入し、中途半端な位置となっていないこと。  
(中途半端な位置となっていると施錠/解錠できなくなることがあります。)



## 20. 施工途中の動作確認

ドア内側のドアノブを付けた時点で以下の動作確認を行ってください。

### POINT

- ・ドア外側のドアノブを下に下げる動作を何回も繰り返し、本体がずれないこと。
- ・ドア外側のドアノブを下げててもラッチボルトが引っ込まないこと。
- ・ドア内側のドアノブを下に下げる動作を何回も繰り返し、本体がずれないこと。
- ・ドア内側のドアノブを下に下げるとラッチボルトが引っ込むこと。

## 21. 電池及び電池カバーの取付け

単三電池を入れた後、電池カバーから出ているアンテナ線(黒い線)と本体から出ているアンテナ線(グレーの線)を接続し、電池カバーを六角レンチを用いて取り付けてください。

### POINT

- ・電池カバー取り付け時、アンテナ線の扱いには注意すること。  
(特にドア外側筐体より出ている灰色のアンテナ線ケーブルを抜いてしまう事例が多いので、アンテナ線は切らないように注意してください。)



奥まで差し込むために  
ラジオペンチ等を用いて  
接続してください。

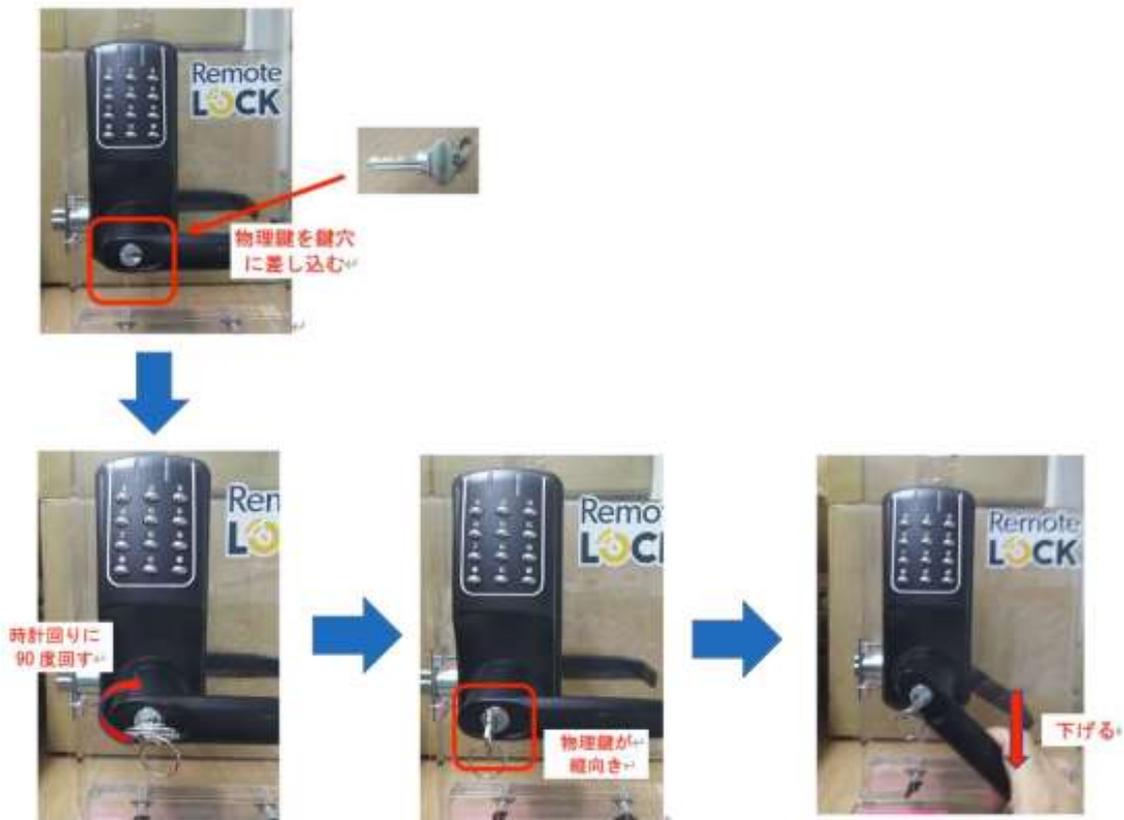
以降の確認は、必ずお客様立ち合いの元で行ってください。

## 22. 物理鍵の解錠確認

鍵穴に物理鍵を差し込み、時計回りに 90 度回転させます。そして、鍵はそのままの状態にして、ドアノブを下げても解錠することを確認してください。

### POINT

- ・ ドアノブを下げる時に物理鍵を抜かないこと。
- ・ ドアノブを下げる時に鍵を半時計回りに戻さないこと。



## 23. 暗証番号による解錠確認

RemoteLOCK 本体より以下の操作を行うことで解錠することを確認してください。

「4321」+「\*」

その後、ドアを閉めた後、自動で施錠されることを確認してください。